

がんばれ！三陸鉄道

大月 和彦

昨年1月、列車に乗ることだけが好きというI君と三陸地方の旅をした。がんを患っていたI君からの年賀状に「手術の経過がいいのでJRのフリーパスを使ってぶらり旅をしたい」とあった。

数年前行ったときは、被害跡が生々しく、三陸鉄道は不通区間が多かった。1昨年春ごろだったか三陸鉄道が全面開通というニュースを見たので、全線に乗ろうと思った。

三鉄線は、北リアス線（久慈―宮古）と南リアス線（宮古―釜石―盛）を結ぶ163kmの路線。トンネルと橋梁が多く、台風や豪雨など災害に弱い。沿線の人口は減っているが、通学や病院通いなど住民生活になくはならない交通機関。無人化や業務の委託など極限まで合理化し、企画列車の運行や三鉄グッズの販売など経営努力をしているが焼け石に水。

旅は誤算続きだった。上野からの新幹線に乗り遅れた。次の列車で新花巻に着くと、釜石行の列車が出たばかりで2時間待ち。雪景色の遠野盆地を過ぎる頃うす暗くなる。釜石に着くと予定していた盛駅へ往復する時間はなく、三鉄全線乗車は断念する。ぶらり旅だからできること。

全線開通と報じられていたが、前年の台風で寸断され、釜石からの下り線が不通という。代行バスで浪板海岸駅そばの民宿へ。

民宿の女将さんは震災当日、勤務先の吉里吉里の給食センターにいて、地震が発生するとすぐ車で自宅に避難した。津波は高台にある民宿の床下まで押し寄せたが大きな被害はなかったという。

翌朝、陸前山田駅まで送ってもらう。2両編成の気動車で宮古へ。三鉄本社のある宮古駅からは北リアス線。久慈行のワンマンカーに乗り換え、田老、小本など災害の爪跡を見ながら北上する、島越では速度を落として、全滅した集落の跡を見せてくれる。普代から先も不通といわれ、また代行バスに乗り換える。バスはなぜか、列車のダイヤ通りに終点久慈駅に着いた。

「コロナ騒ぎが落ちついたら、三陸海岸の風景を三鉄の車窓から眺めたいと思っている。」